

## 第2回 三次市まち・ゆめ基本条例検証委員会 会議要旨

### 1. 開催概要

日 時：令和3年10月4日（月）9時50分～11時

場 所：市役所本館 6階 601会議室

出席者：

（委員長）	有田 雅俊	三次市住民自治組織連合会 会長
（副委員長）	中山 利彦	三次商工会議所 副会頭
（委員）	喜多嶋 秀美	三次市集落支援員
	西川 剛	公募委員
	砂川 智子	三次市広域商工会 会員
	矢野 好子	国際ソロプチミスト三次 会員

事務局：三次市地域振興部地域振興課

### 2. 会議次第

- 1 開 会
- 2 前回委員会の振り返り
- 3 協議事項  
三次市まち・ゆめ基本条例検証について
  - (1) 意見交換
  - (2) 中学生まちづくり作文について
  - (3) 次回の会議設定
- 4 そ の 他
- 5 閉 会

#### 【資料】

- ・ 三次市まち・ゆめ基本条例検証委員会意見内容まとめ

### 3. 議 事

#### 1 開 会

<事務局より、次の事項を連絡>

- ・本会議に傍聴希望があった場合は許可すること。
- ・会議録及び、委員名簿を、市のホームページ上で公開すること。
- ・会議録作成のため、会議を録音すること。

(意見等なし)

#### 3 協議事項

##### (1) 意見交換

(委員)

職員アンケートについて、臨時職員等への周知徹底を今後どうするか等課題はあるが、正規職員は、回収率は低いですが、その中でも理解はしているという回答があり、割合が増えてきている。少しずつ改善、認知度を上げていく方向で良いのではないかと思います。

(委員)

周知、関心を広げるためには、命に関わるとかというような公開の仕方を考えたらどうか。大げさに言ってみたら関心が持って広げてくださるのでは。

職場と地域2カ所以上で考えるのは負担になるので、1人が負担するのではなく、複数の人で負担を減らすようにして行けば良いのではないかと思います。

(委員)

「三次市まちゆめ基本条例の解説」いただいたが、読んでみると難しい。だからなかなか浸透しないのかなと思う。わかりやすく、挿絵を入れるなど、読んでみようと思う作りにしたらどうか。

(委員)

地域の方に見たことあるか聞いてみたら、見たことはあるが内容を知らない。子供がいれば見聞きすることもあるが、一度見ただけでしまいこんでしまう。役所言葉でなく、わかりやすい言葉を使った方が入り込みやすいと思う。

(委員)

どういう方法で皆さんに周知するか。再度配布するか。講習や出前講座等するか。何かしないと関わった人だけしか知らないことになる。PR, 広報手段を考える。年に一回くらい広報しても良いのでは。

(委員)

この条例がこれだけ周知されていないのはどうなのか。

市として条例としてまちづくりの基本として進めていくなら、もう少し周知、認知を上げ

る必要があるし、活用していくべき。

職員の認知率が低いのであれば、市民の方もなおさら知らないと思う。

(委員)

まちゆめ基本条例の名前と存在を、皆さんに周知していく意味で、啓発の強化週間や強化月間を年に一回設けてみてはどうか。

「常会単位の活動など地域の方が参加して地域を盛り上げる事をしている行動は、この理念にはまっています。」など、広報やピオネットで周知し、皆さんの日ごろの活動が結びついている、重要な役割を果たしている、そのために条例があるんです。と広げる。

市と市民と行政と市議会、三者での検証委員会、意見交換等今後設けていただければと思う。

(委員)

危機感をもってやらないと、今後も同じ意見がでる。強化月間をつくるなり、広報誌に掲載するなど何か取組を。認知度が低いのが大きな問題。

(委員)

ピオネットはだいたいの方は見ていると思う。読んだりするよりはテレビで流した方がわかりやすいと思う。

(委員)

『三次市まちゆめ基本条例』は夢がある名前なのに、中を見ると固い話。「〇〇ではこういう取組があります。それもまちゆめの一環です。」など具体的な話をしても良いのでは。

(委員)

小中学校に配布したMOOK本くらいでちょうど良いのかも知れない。

小中学校では総合学習で使われたり、作文の回収率も増えたりしているし、意識が高い。逆に小中学生にアンケートしてみたら違ってくるのではないか。意識をもって生活するきっかけになる。子ども達の清掃活動等が、まち・ゆめに通じるものといった内容をピオネットで放送しても良いのでは。

(事務局)

前回検証でも大人へのアプローチは難しいため、子どもに向けて取り組んだ。コロナ禍もあり、まちづくり作文は例年になく多く応募があり、出前講座も数回あった。小中学校に対する周知、まちづくりに関する認知はできてきたように思う。

4年間の取組が何か意味があったか、各立場でこういう取組みがあり、どう変化したというものがあれば聞きたい。条例に沿ったまちづくりができていたか、振り返ってみて意見があれば教えていただきたい。

「まち・ゆめ基本条例」はあくまで条例であるため固い表現となってしまう。ただ、この条例は、市民の方に作っていただいたもので、やわらかい理念になっている事をご承知くだ

さい。

(委員)

ハンドブックはわかりやすい。地域ビジョンに「できた」「できてない」、「何ができて」「何ができていない」かの項目を付け加えるのはどうか。小さいことも拾う必要があるかも知れない。

チェック項目、評価等、一つの指標になるのでは。

自治連や、地域にある団体の代表者だけでもやってみようか。

(委員)

各地域のビジョンの検証見直ししているのだから、その検証結果をあげてみては。

(委員)

移住者の方との協働が増えた。Iターンで移住された方の方から、「やってくれませんか」、「協力してくれませんか」などと言ってきてくれる。今までは干渉されずひっそり暮らすイメージで、組織の活動に興味がないという方だった。最近移住される若い世代は、子育て環境や里山の暮らしがしたい、よりよくしたい、なんかできないかというパワーが感じられ、まちづくりに協力的。これも協働の一つとして、移住者に対して接点が生まれている。よそから来た人との場を継続し、コミュニティの場を作ることが大事だと最近思う。

(委員)

市のHPから条例に入ろうとしたら、わかりづらい。トップページにバナーはあったらどうか。

(委員)

小中学生のときからやっていたら大人になったときに周知されているはず。SNS使いこなせない世代にも周知できるものがあれば。

(委員)

市議会としては難しいかもしれないが、議員個人の意見として出して欲しい。アンケートだけでも協力いただけたらと思う。

(2) 中学生まちづくり作文について

応募件数及び今後の審査方法について確認。

(3) 次回の会議設定

11月12日(金) 10時から開催する。